

くらよし

October 10
2010

平成22年10月号

No.1388

今月の特集：「地元愛」のカタチ

髪にカンザシ 桃の花
 かざす扇は 蝶ちように似て
 さても目出たき 初舞台
 踊りの振りを 相仕まつる――

「第25回倉吉せきがね里見まつり」

9月5日(日) 山守小学校



CONTENTS

- 「地元愛」のカタチ……………2～8
- ハート・バリアフリー……………9
- インフォメーション
 ・プラス……………10～12
- インフォメーション……………13～17
- あんしんファイル/
 レッツ！介護予防…18～19
- 出かけてみよう……………20～21
- 市長コラム/シナブロ韓国 ……22
- まちかどピンナップ……………23
- 若者の定住に向けて/人口 ……24

「地元愛」のカタチ

〜関金町子供歌舞伎を愛する人たち〜

関金町の山守地区では、毎年9月に「倉吉せきがね里見まつり」が開催されている。

人口1,000人に満たない、この小さな山里の催しには、地元住民をはじめ、里見氏縁者などが全国から訪れ、会場の山守小学校は大変な熱気に包まれる。

ハイライトは、山守小学校の児童が演じる子供歌舞伎「里見八賢士 堀村館勢揃いの場」。上演回数23回を数えるこの舞台は、出演者はもちろん、脚本や監督、裏方にいたるまで、すべてを地元住民の、いわば100%山守産の力で作り上げられている。

山守地区の人たちが、さまざまに子供歌舞伎を支える姿を通して、地元を愛するカタチを見つめる。

【その1】

作り出す愛



山守地区と里見氏

「南総里見八犬伝」は、江戸時代の戯作者滝沢馬琴によって書かれ、人気を博した大長編小説。

【南総里見八犬伝のあらすじ】

安房の国(現在の千葉県館山市)の城主里見義実の娘(伏姫)は、父親のたむわれの言葉により飼犬「八房」と結婚。やがて、彼女のお腹は大きくなり、徳を表す「仁・義・礼・智・忠・信・孝・悌」の各文字を持つ8つの玉が生れる。

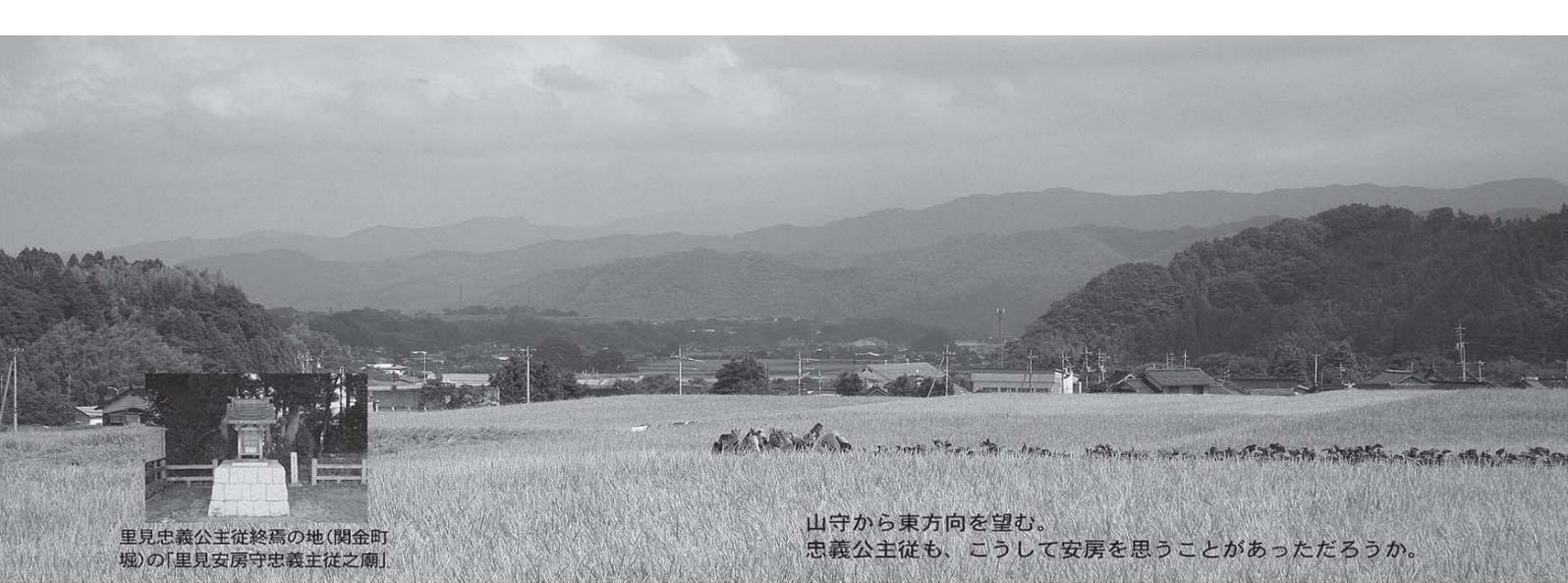
伏姫の死とともにこの玉が八方に散し、やがてそれぞれの玉を持つて生まれた八犬士たちが成長し、苦難に遭いながらも因縁の糸で結ばれて出会う。そして、里見氏のために忠義をつくし、主君を守るために活躍していく。

この物語のモデルとなったのは、江戸時代初期の大名で安房の国館山藩12万石の十代藩主里見忠義公(1594〜1622年)とその主従だ。里見忠義公は、幕府内の勢力争いに巻き込まれ、義祖父

の老中大久保忠隣に連座して、館山藩からここ倉吉の地(当初3万石)に転封(大名の領土を別の場所に移すこと)された。

倉吉でも、たびたび禄高俵禄(給与)を減らされた上に、住まいも転々とし、ついには、元和8年(1622)6月、堀村(現在の関金町堀)で不遇の生涯を閉じる。享年29歳だった。忠義公が亡くなった3か月後の9月には、安房から従ってきた8人(6、7人説もある)の側近も殉死し、主君と同じ大岳院(東町)に葬られた。





里見忠義公主従終焉の地(関金町城)の「里見安房守忠義主従之廟」

山守から東方向を望む。
忠義公主従も、こうして安房を思うことがあったらどうか。

子供歌舞伎の始まりと歩み

この里見氏の名を持つ「せきがね里見まつり」の誕生は、昭和61年。「手づくりのジゲ起こしをしよう」と、当時の関金町商工会青年部が中心となつて「未来塾」を立ち上げたのが始まりだ。

「どんなことをしようかと話し合う中で、堀の「六人塚」が話題に上った。六人塚が里見主従の終焉の地だというんだ。それまで、六人塚の存在は知られていただけ、それが里見と関係があると知っていた住民は、ほとんどいなかったからみんな驚いた」

と当時を振り返るのは、「第25回倉吉せきがね里見まつり実施委員会」で委員長を務めた福永晴美さん。このまつりの立ち上げ当初から尽力し、今や、まつりになくはならない存在になっている。

「それなら、里見に因んだ祭りにしよう」と話がまとまった。開催日も八賢士の命日前の9月初旬にした」

心情を打ち表し慰める、という趣向で、大勢の見物客を集め、大成功を収めた。

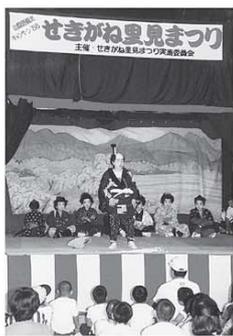
第2回目からは、演芸も始まり、当時の町議会議員数人が歌舞伎を演じ、まつりを盛り上げた。

「しかし、出演者からは「自分らはもう年だし、子どもたちを受け継いでもらうのが工夫でないか」という声が出て、それなら子供歌舞伎をしようということになった」

ストーリーも里見八犬伝をベースに、地元の石田紀人さん(故人)が台本を書き上げ、当時の山守小学校の6年生の児童や保護者に声をかけて、原形ができあがった。

舞台は、毎年、好評を博し、地元でも注目されるようになった。しかし、衣装も化粧も出演者が自前で用意しなければならぬなど、課題もあった。

地元のまつりとして、長く続けていくにはどうしたらいい



第1回子供歌舞伎(S 63)



福永 晴美さん(関金町明高) 第25回倉吉せきがね里見まつり実施委員会委員長。まつりでは、ドラマ・リーディング「伯州 里見八賢士」の助監督も務めた。

いか、山守地区の人たちは話し合い、子供歌舞伎を組織的に支援する「関金町子供歌舞伎保存会」の設立にこぎつけた。国や企業の助成を受ける一方、地元住民からも支援も募り、賛同者は140人を越えた。

「これで、カツラや金糸銀糸を使った衣装も、徐々に、そろえることができるようになった。何より保存会の結成は、地元の人に「自分たちのまつり(歌舞伎)」という意識を芽生えさせ、まつりを盛り上げていくきっかけになった」

子供歌舞伎の「行き先」も見据える

「今は、子供歌舞伎も定着し、低学年のころから、やりたい役を決めている子もいる」と福永さんは目を細めて話す。

今後の課題は、「地域の子

どもが少なくなり、演じ手が足りなくなるのをどうするか」としながらも、「舞台上上がることは、絶対に子どもの自信になる。物怖じしなくなり、自分の意見を大きな声で言うことができるようになるんだ。これは社会に出ても生きてくるはず。必ず忘れられない思い出になるんだから」と変わらない意欲を見せる。

福永さんは、「子供歌舞伎が「伝統文化」になるまで頑張るよ」と言った後、「でも、何年たったら、「伝統文化」と呼ばれるんだらうね」と茶目つ気たつぷりに笑った。

地元には見え知られていなかった歴史を掘り起こし、まつりを作り上げる。そして、続けていくための道筋を作り上げる。「作り上げる」力がまつりの根幹を支えている。

「地元愛」のカタチ

【その2】

つながる愛

「あと40分で始まるぞ。急げよ」。控室の教室に、福田耕昇監督の鋭い声が響き、本番前の慌ただしい空気がさらに張り詰める。化粧に着付け、かつらあわせと、スタッフと子どもが入り乱れて支度を整える。しかし、スタッフたちは作業の手を早めても、決して子どもたちへの気遣いを忘れない。舞台上上がっても不安がないよう、衣装と気持ちをしつかりとサポートする。

「大丈夫、うちらが全力でバックアップするから。行っておいで」
最後は、そう言っただけで子どもたちを舞台へ送り出す。

スタッフは、すべて地元の大人たちだ。仕事もあり、家庭もある。しかし、さらに子供歌舞伎の運営も手掛けるパワー。一体、それはどこからきて、何を生むのだろう。



子供歌舞伎の練習は、夏休み中、土・日曜日とお盆以外は毎日。

「子ども一人ひとりの個性や特性に合わせて振り付けやセリフ回しを変えることもあります。その子の「いいところ」を少しでも出してあげたい。「やってよかった」という思い出にしてほしいですから」(影山さん)



影山 多喜子さん(関金町堀)
関金町子供歌舞伎で演技指導や化粧・着付けを手掛ける。

「地域と結びつく。」

だから面白いんです」

好きだからこそやってこれた

になった。

毎年、子どもたちが夏休みに入ると、子供歌舞伎の練習が始まる。影山さんは、仕事を終えて疲れた身体で、晩ご飯もそこそこに、練習場に向かった。

「しんどかったですよ。特に、初めのころは、演技指導なんて何も分からなかったです。無我夢中でした。先輩に指導していただいたり、よその歌舞伎を見に行ったりして、試行錯誤の繰り返しでした。舞台は、子どもと私たちスタッフの気持ちの一つにならないと良いものをつくる事ができないのですが、それができるようになったのは、ここ10年ぐらいです」

「確かに、好きでないと、やれませんが。子供歌舞伎の指導なんて、やらなければやらなくてもいいことですから。『何でこんなことせんといいけんだろう』とよく思いました」と影山多喜子さんは言う。きりつとした温かい眼差しで見つめられると話に引き込まれる。

影山さんは、第1回から「せきがね里見まつり」に参加している。最初は自分が踊り子だったが、子供歌舞伎が始まり、保護者として携わって以降、子どもたちの演技指導や化粧・着付けを担当するようになった。



- ① 出演者も総出で子どもの着付けをする。
- ② 舞台上でカツラがずれてしまっは一大事。詰め物をはさんだりして、しっかり調整する。
- ③ ちょっとした合間にも、セリフや所作を確認。もうすぐ練習の成果を発揮するとき。背中に静かな緊張が漂う。
- ④ ごった返す控え室。慌ただしい中にも、「ありがとう」や「大丈夫？」といった思いやりのある言葉が交わされる。
- ⑤ 支度の合間に、若いスタッフを「イジって」遊ぶ子どもたち。緊張をほぐすためには、「イジられ役」も必要。
- ⑥ どんな顔になるのか。化粧をした自分の顔は、完成して鏡を見るまでのお楽しみ。

子どもたちの笑顔が原動力

それならなぜ10年以上も指導を続けているのか。もちろん好きでなければできない。しかし、それだけではないと言う。

「大役をやり遂げた時の子どもたちの笑顔を見ると、これまでの苦労や疲れがすべて吹き飛んでしまい、「またやりたい」という来年への糧になるんです。あの笑顔にはそれだけの力があります。子どもたちに感動を味あわせたいと思っやっっているのに、気がつけば、むしろ、私が子どもたちから感動をもらっているんです。ほかのスタッフも同じ気持ちでしょう。よく「あの笑顔を見たら、来年もやらないわけにはいかない」と話をします」

影山さんは、周囲に呼びかけて少しずつスタッフ仲間を増やしてきた。練習や準備など大変なことは多い。しかし、辞めていくスタッフはほとんどいないという。

地域のときずなを築く

そして、もう一つ、影山さん

は、子供歌舞伎の指導者をやっているよかつたと思うことがあるという。

「演技指導を長年やっていると、地域の中・高生や若者からも声をかけられることがあります。「影山さん、こんにちは」という何気ないあいさつに、指導者冥利を感じます。子供歌舞伎のスタッフでなければ、私は、彼らにとって、ただの年が離れた「近所の人」。あいさつを交わすこともないでしょうから。名前を覚えていてもらい、あいさつしてくれるのは、子供歌舞伎の指導者だからこそでしょう。」

それに、子供歌舞伎は、たくさんの地域の人々が携わって作り上げています。地域が一丸となつて結びつく。だから面白いんです。子供歌舞伎を通して、地域のさまざまな人と、しっかりとしたきずなをつくり上げてきたことが、私にとって何よりの宝物です」

与えるからこそ、与えられる愛がある。そこからお互いに、血の通った温かいきずなができる。そして、それは少しずつでも確かに地域の中に広がっている。

「地元愛」のカタチ

そして八賢士は甦った

よみがえ



【その3】 合わせる

いぬたこぶんこ 藤順
① 犬園小文吾 藤順

この日のために、夏休みを返上して練習に励んできた子どもたち。本番の舞台では、大勢の観客の前で、見事にその成果を披露した。

東西 東西

これなる舞台の面々は

乙書(いり)の国は 久米郡

山守(やまもり)生まれ 里(さと)育ち

初(はつ)のお目見(めみ)え初(はつ)舞台

南(なん)総(そう)里(さと)見(み)八(やち)犬(いぬ)伝(でん)

室(むろ)町(まち)時(とき)代(だい)の物(もの)語(ご)り

今(いま)は 牛(うし)葉(は)原(はら)・安(やす)房(ふさ)の国

初(はつ)代(だい) 義(ぎ)美(み) 愛(あい)娘(むすめ)

孝(こ)・信(のぶ)・備(のり)・義(ぎ)・忠(ただ)と智(ち)に

礼(れい)・仁(に) 加(か)えた八(やち)文(ぶん)字(じ)は

手(て)づり寄(よ)せられ義(ぎ)兄(あに)弟(てい) ゆかりの玉(たま)と知(し)られたり

相(あ)模(ま)の国(くに)を初(はつ)めどし

上(かみ)野(の)下(した)野(の) 甲(か)斐(ひ)武(ぶ)蔵(ざう)

関(せき)八(やち)州(しゅう)をまたにかけ

怪(かい)異(い)話(わ)をおりこんだ

氏(うぢ)や育(よ)ちは異(い)なるが

奇(き)むき因(いん)縁(えん)八(やち)賢(けん)士(し)

その合(あ)戦(せん)で討(う)ち死(し)にひた

堀(ほり)村(むら)館(かん)は道(みち)すがら

名(な)乗(のり)を拵(せう)げて皆(みな)様(さま)に

ぶつつかなかから相(あ)努(と)めま



②、③ 口上

9月5日(日)午後4時10分。よく通る声の口上で、子供歌舞伎「里見八賢士 堀村館勢揃いの場」の幕が開ける。

残暑とは名ばかりの猛烈な暑さ。山守小学校の体育館は、さらに熱気がこもり、座っているだけで体中から汗が滴り落ちる。

分厚い衣装を何枚も着込んだ舞台の子どもたちの暑さはいかばかりか。

八賢士の名乗りは続く。これまでの苦難の道のりを、勇猛な身振り手振り、迫力ある表情で語りあげる。

ここまで仕上げるのにどれくらい努力したのだろう。

子どもたちは、保護者は、スタッフは、どんなに大変だったろう。そして、今どんなに感動しているだろう。

八賢士の身の上に、地元の人がつくりあげた舞台に、胸が熱くなる。

大山道忠





- 4 里見伏姫 7 犬川莊助 義任 10 犬飼現八 信道
- 5 犬塚信乃 戌孝 8 犬江親兵衛 仁 11 犬村大角 礼儀
- 6 犬坂毛野 胤智 9 犬山道節 忠与



監督から message 八賢士へ

「東西一、東西」という口上の名調子で始まる関金町子供歌舞伎。今年、特別な猛暑の中で、チームワークよく、頑張って練習に耐えた。本番の舞台も、猛烈な熱気の中で見事に演じきり、私も感動した。子供歌舞伎は、君たちにとって、一生の思い出になったはず。この思い出を胸に、これからも頑張って欲しい。本当に、よく頑張った。お疲れさま。(福田耕昇さん・関金公民館館長)

八賢士が空をにらむ。保護者の見守る目、下級生の憧れの目、お年寄りの歌舞伎を楽しむ目、すべての視線が舞台に集まる。

体育館に集うすべての人が「舞台」をつくる。この地の人たちは、何年も何年も、こうして一緒に「舞台」をつくり続けてきた。

舞台が幕を閉じ、割れんばかりの拍手が沸きあがる。

「達成感」が満ちあふれる。

地元の人が、力を合わせてつくりあげたこの「瞬間」は、まぶしい輝きを放った。

八賢士は、この日、確かに甦った。

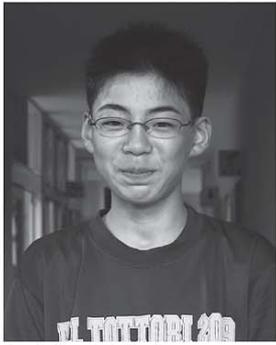
【8つの質問内容】

①練習はどうでしたか？／②衣装を着てみてどうでしたか？／③かつらをかぶってみてどうでしたか？／④なぜこの役をしようと思いましたか？／⑤何が大変でしたか？／⑥本番はどうでしたか？／⑦やってよかったですか？／⑧来年演じる後輩へのアドバイスは？

「地元愛」のカタチ
番外編

八賢士に、
一つの
質問！?

素晴らしい舞台を見せてくれた山守小学校6年生
11人に感想を聞きました。



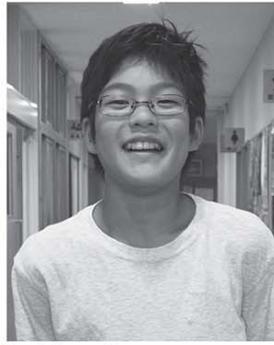
【役名】里見伏姫
【名前】東 維央里

⑦やってよかったです。今年で子供歌舞伎は23回目になるけど、これまで続けてきた伝統の歌舞伎を、自分たちでやり続けていけたのでよかったです。これから続けて欲しいです。



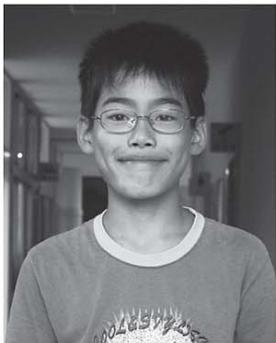
【役名】口上
【名前】高橋 智哉

①練習がほとんど夜だったけど、蒸し暑くてやりづらかった。でも、きちんと練習できたのでよかったです。
⑥たくさんお客さんがいてビックリしました。
⑧精一杯練習して、いい舞台を演じてください。



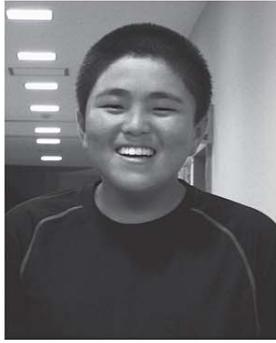
【役名】口上
【名前】茅原 優作

⑥舞台上がったら、すごく緊張しました。達成感が味わえました。本番成功、バンザイ！ライトがまぶしー！(*_*)



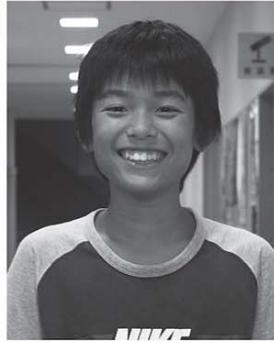
【役名】犬川 莊助 義任
【名前】山下 大樹

④お兄ちゃんがやっていた役で、小さいころ見た時に、とてもかっこよかったから、ぼくもやってみようと思いました。衣装もかっこよかったから。



【役名】犬田 小文吾 悌順
【名前】小椋 知哉

②小文吾の衣装は、毛布を着ているようで、とても暑かったです。
⑤大きな動作がいっぱいあったので大変でした。



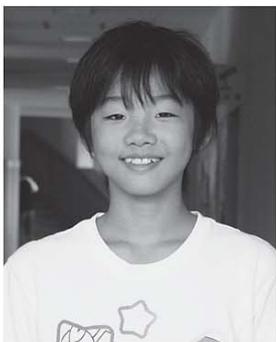
【役名】犬飼 現八 信道
【名前】小野 健司

⑤全部難しかったけど、特に、最後のキメのところが難しかったです。でも、スタッフの方にDVDまで作ってもらって練習したら、上手くできるようになりました。



【役名】犬塚 信乃 成孝
【名前】崎上 嶺

④去年、信乃を演じた人を見て感動したから。特に、飛ぶところがかっこよかったです。
⑥汗と緊張で大変でした。でも、結果はとてもよかったです。
⑦ハイ。とてもよかったです。



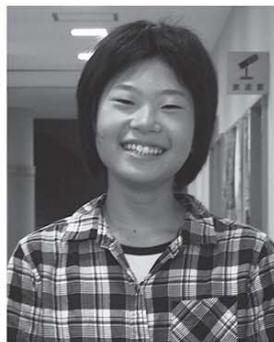
【役名】犬江 親兵衛 仁
【名前】笠原 一馬

⑤飛んだりしてまわるのが難しく、どっちの足ですればいいのかも最初はよくわかりませんでした。でも、練習を重ね、できるようになりました。



【役名】犬村 大角 礼儀
【名前】坂根 杏香

⑤衣装が変わる時に、力いっぱいつかんだり、化け猫と戦う時に、勢いをつけて刀を振ったりするのが大変でした。



【役名】犬坂 毛野 胤智
【名前】堀井 美保

③楽にかぶれたけど、みんなが「きつい」と言っていた。
⑦YES！(^_^)!



【役名】犬山 道節 忠与
【名前】池内 勇人

⑧暑いけど、頑張りましょう。
ファイト！